演 題	EXCELによるスプレー塗装皮膜厚さのシミュレーション						
発 表 者 (所 属)	今井啓裕、岸玄一郎、佐藤敏彦(芝浦工業大学材料工学科)						
連絡先	東京都港区芝浦 3-9-14 芝浦工業大学材料工学科						
キーワード	スプレー塗装、皮膜厚さ、EXCEL、シミュレーション						
開 発 意 図 適 用 分 野 期 待 効 果 特 徴 な ど	スプレー塗装作業の改善						
	適応機種名						
環 境	OS名	Windows					
	ソース言語	EXCEL					
	周辺機器						
	・日本コンピュ	ータ化学会の無償利用	具	体	的	方	法
流 通 形 態 (右 の い ず れ か に を つ け て く だ さ い)	ソフトとする ・独自に頒布す ・ソフトハウス、 ・ソフトの頒布 ・その他	る 、出版社等から市販 は行なわない ・未定					

1. 研究目的

図1は手動式スプレー作業のイメージ図を示す。スプレー・ ガンが一方向に一度動くと被コーティング面上に蒲鉾の様な 横長の山が出来る。そして、次の被覆作業は上述の横長の蒲鉾 の端に重ねてスプレーされる。この作業の繰り返しでスプレー 作業による皮膜が形成される。この皮膜の断面模式図を図2に 示す。皮膜の重なり度合いが少ないと、皮膜は薄くて、凹凸が 大きい。逆に、スプレー皮膜の重なり度合いが大きいと、皮膜 の凹凸は小さいが、 皮膜厚さが厚過ぎる状況になる。したが って、スプレー塗装皮膜の重なり度合いを適切にする必要があ る。この重なり度合いを検討した。

 プログラミング言語によるシミュレーション 16座標点で示される一山の皮膜断面(図2)を 差分法で関数化すると、fi(X¹⁵)の15次関数で、 しかも、「但しx < xiとx > xi+16の時、fi(X¹⁵)
=0」の条件が付く。そして、これらの関数の和を



図1 スプレー塗装



計算して、グラフ化する。かなり煩雑なプログラミングである。



 $f_1(X^{15})$ $f_2(X^{15})$ $f_3(X^{15})$ $f_4(X^{15})$ $f_5(X^{15})$ $f_6(X^{15})$ 図 3 プログラミング言語による方法

3. EXCELによるシミュレーション

スプレー塗装皮膜断面の横軸の値(×座標)を EXCEL の A 列に挿入し、最初のス プレー皮膜断面の厚さを B 列に挿入する。以下は同様に断面の厚さを挿入する。その 後、B 列から G 列の値を横方向に加えて、それらの和を H 列に挿入する。ここで A 列 と H 列を X 軸と Y 軸にしてグラフを描画させると図 4 のシミュレーション結果になる。 同様の方法でスプレー・ガンを左右に移動させた後に、上下に移動させたスプレー作 業による皮膜厚さも図 5 の 3 次元グラフで表示できる。



表1 EXCELへの「スプレー皮膜断面の距離」と「断面皮膜厚さ」の挿入





図 5 3次元シミュレーションの結果